

1 小峰城歴史館所蔵 白河結城家文書

1 関東下知状(継紙)

〔包紙ウハ書〕
一一 北條時宗・政村連署老通」

宮城右衛門尉廣成後家尼代子息景廣与那須肥前^二二郎左衛門尉資長相論條々

一 鎌倉地一所町事

右、以訴陳状、於引付之座召問兩方之處、如景廣申者、陸奥^一介景平娘平氏者資長妻女也、件地者、景平讓氏女、氏女所^レ讓尼也、而資長押領之云々、如資長申者、氏女者資長舊妻^レ也、而建長二年七月讓資長畢、争以尼所帶八月状可被悔^レ返哉云々、景廣申云、資長所帶讓状者、彼地惣領事也、尼分^レ者其内在家二字也、資長者氏女舊夫也、尼者異姓他人也、何^レ無用捨哉、随又氏女所領并鎌倉地同所從資財、皆以資長令^レ相傳之間、難号他人欺

云々、資長申云、舊妻者外人也、何可悔^レ返資長分讓状内哉云々、爰如景廣所進氏女建長二年八月日^レ讓状者、四郎入道并新屋跡者、氏女一期之後讓尼之由、所見^レ也、如資長所進景平讓氏女延應二年八月日状者、峯与利通^多留道与利直仁辻子口与利南地者、讓鶴石氏女云々、如氏女讓^レ資長建長二年七月日状者、峯与利通^多留辻子於限^天南地者^レ讓之云々、者就氏女讓状可蒙裁許之由、景廣雖申之、讓^レ夫之^{第二紙}財者不被悔返之条、云法意云傍例分明坎、然者氏女以件地^レ讓与資長之後、令分讓于尼之条、難叙用坎、仍尼訴訟不及^レ沙汰焉、

一 資長召文違背事

右、資長歸國之後、弘長三年五月被下召文畢、而依宇都宮^一頭役、難參上之由進請文之間、可進代官之旨、自同七月至今年七月、被下四个度召文之處、日数違期之後、雖進代官、寄事於資長禁忌、無左右歸國畢、資長所行頗雖為自由、資長參上之間、召問兩方被裁許之上、任傍例不及沙汰矣、

以前條々、依將軍家仰下知如件、

文永元年十月十日

(北条時宗)
左馬権頭平朝臣(花押)

(北条政村)
相模守平朝臣(花押)

【法量】(第一紙)三三・五×五三・三、(第二紙)三三・五×五三・四、

【料紙】楮紙、【刊本】市史三号、【備考】紙継目裏下部に奉行人の花

押二類あり。

正安二年十二月廿日

傳蒲生村畢、而致公事相論之間、有其沙汰之『處、去年正月廿八日兩方出和与状畢、如状者、景衡跡』當庄召米以下公事伍分壹者、為高頼役可致』沙汰云々者、早守彼状、相互可致沙汰之状、依仰』下知如件、

右近將監藤原(花押)

散位藤原朝臣(花押)

(二階堂行藤)
前出羽守藤原朝臣(花押)

2 結城家系図(76頁参照)

3 安達氏系図(81頁参照)

【法量】三三・九×四九・五、【料紙】楮紙、【刊本】市史四号、【備考】二階堂行藤は政所執事。

4 関東下知状

5 結城家重書写(継紙)

(付箋)
右近將監

一 散位藤原
前出羽守

(包紙ウハ書)
北畠大納言親房入道元覚書一通二通ノ内
後醍醐天皇繪旨一通

陸奥介景綱代圓阿与那須肥前左衛門太郎『高頼代敬念相

論、陸奥國八幡庄召米以下公事』間事

(1) 後醍醐天皇繪旨写

右、當庄者、景綱祖父景衡之所領也、高頼為女子跡』令相

被 繪旨清、

前相模守平高時法^(マ)師、不顧國家軌範、猥^(マ)背君臣之礼義を、掠^(マ)領^(マ)於諸國、令勞苦万民、僭^(マ)乱甚事何事如之^(マ)乎、己為朝敵不遁天^(マ)罪、為却彼凶徒、所被^(マ)拳^(マ)義兵也、早相催出羽・陸奥兩國軍勢、可企^(マ)征伐、勲功之賞宜依^(マ)請者、天氣如此、悉之、

左中将御判有

元弘三年四月十七日

結城上野入道館

「如此私先祖結城上野^(第1紙)入道道忠^(第2紙)、綸旨被成下^(第3紙)ニ付而、企合戰得勝利、如此^(第4紙)奉捧御返答、此上状^(第5紙)ニ貴様^(第6紙)御先祖之儀も候間、為御覚之^(第7紙)書写進上仕也、」

(2) 結城宗広請文写

去四月十七日 綸旨謹承^(第1紙)畢、抑相催陸奥・出羽兩^(第2紙)國軍勢、可令征伐前相模^(第3紙)守平高時法師以下凶徒^(第4紙)由之事、道忠并一族等折^(第5紙)節在鎌倉仕之間、先於鎌倉、相率道忠舍弟田嶋^(第6紙)与七左衛門尉廣堯^(第7紙)・同子息^(第8紙)一人、同片見彦三郎祐義^(第9紙)・同子息^(第10紙)式人并家人等、從今^(第11紙)月十八日始合戰、毎日連々^(第12紙)數

戰、同廿二日既追落鎌倉^(第13紙)之凶徒等畢、且ハ親類家人^(第14紙)等抽軍忠之次第、上野國之^(第15紙)新田太郎令存知之上者^(第16紙)、^(第17紙)令注進坎、無其隱候哉、^(第18紙)兩國軍勢催促事、親朝^(第19紙)、^(第20紙)殊可致忠節之由就下知^(第21紙)候、随分致其沙汰候、直捧^(第22紙)請文候坎、次委細之趣、以使^(第23紙)者親類伯耆又七都保令^(第24紙)言上候、以此趣不洩可有御^(第25紙)披露候、道忠恐惶謹言、

結城入道道忠

元弘三年六月九日

【法量】(第一紙)一三・九×三九・二、(第二紙)一四・〇×三四・四、
【料紙】楮紙、【刊本】(1)市史二二号(7)(5)から採る、(2)市史二六号(7)(8)から採る、【備考】7(8)では「田嶋与七左衛門尉廣堯・同子息一人」と「片見彦三郎祐義・同子息式人」の位置が入れ替わっている。

6 北畠頭家下文案

〔包紙ウハ書〕
〔フ〕糠部内九戸事國宣案 壹通
〔端裏書〕
〔付箋 朱書〕
糠部内九戸事國宣案
〔付箋〕
井
〔付箋〕
イノ七